

平成30年11月13日

平成30年度第8回教育委員会定例会会議録

鹿児島県教育委員会



議 決 事 項

件 名	提 案 理 由	審議の状況	採決の次第
<p>議案第1号 平成31年度教育委員会 の人事異動方針及び教育委員 会事務局等人事異動の重点 について</p>	<p>平成31年度人事異動を行うに 当たり、教育委員会の人事異 動方針及び教育委員会事務局 等人事異動の重点を定めるも のである。</p>	<p>特記事項 なし</p>	<p>決 定</p>
<p>議案第2号 平成31年度公立 学校人事異動の重 点について</p>	<p>「県公立小・中学校教職員 人事異動の標準」、 「公立高 等学校教職員長期人事異動の 標準」及び「県特別支援学校 教職員人事異動の標準」に即 し、人事異動を行う際の基本 的な観点として、平成31年度 人事異動の重点を定めるもの である。</p>	<p>特記事項 なし</p>	<p>決 定</p>
<p>議案第3号 平成31年度県立 特別支援学校幼稚 部幼児及び高等部 生徒の募集定員の 策定について</p>	<p>平成31年度県立特別支援学 校幼稚部幼児及び高等部生徒 募集定員を定めようとするも のである。</p>	<p>特記事項 なし</p>	<p>決 定</p>
<p>議案第4号 平成30年度鹿児 島県優秀教職員表 彰の被表彰者決定 について</p>	<p>平成30年度鹿児島県優秀教 職員表彰の被表彰者を決定し ようとするものである。</p>	<p>特記事項 なし</p>	<p>決 定</p>
<p>議案第5号 鹿児島ふれあい スポーツランドの 指定管理者の候補 者の選定について</p>	<p>指定管理者に鹿児島ふれあい スポーツランドの管理を行 わせるために、その候補者を 選定しようとするものであ る。</p>	<p>特記事項 なし</p>	<p>決 定</p>

# 会 議 要 旨

## 1 開会

## 2 会議の公開等について

教育長報告第1号，議案第4号，議案第5号及びその他（3）については，非公開で審議する旨，教育長から発議があり，全会一致で議決された。

## 3 平成30年度第7回教育委員会定例会の会議録の承認

承 認

## 4 議案

議案第1号 平成31年度教育委員会の人事異動方針及び教育委員会事務局等人事異動の重点について

議案第2号 平成31年度公立学校人事異動の重点について

(総務福利課長) 平成31年度人事異動を行うに当たり，教育委員会の人事異動方針及び教育委員会事務局等人事異動の重点を定めるものである。

(教職員課長) 「県公立小・中学校教職員人事異動の標準」，「公立高等学校教職員長期人事異動の標準」及び「県特別支援学校教職員人事異動の標準」に即し，人事異動を行う際の基本的な観点として，平成31年度人事異動の重点を定めるものである。

(島津委員) 第1号議案及び第2号議案は，基本的な部分は昨年度と変わらないとのことであるので，これによろしいと思う。現状に合わせた形で策定されていると思う。

業務改善についての考え方は，この中でどのように捉えたらよいか。

(教職員課長) 人事異動の重点の中には，具体的に「業務改善」という言葉は入っていないが，今回新たに挿入した2点の内容が業務改善につながると考えている。1点目は「教職員の確保及び適切な配置」である。教職員が配置なされなければ，他の先生に負担がかかる。年度当初に定数が確実に配置されていないことで，学校の業務が煩雑になるという状況もあるので，確実な確保と適切な配置を掲げた。

2点目は専科教員の配置である。小学校では，学級担任は全ての授業を担当しており，子供のノートを見たり，保護者へ連絡したりする時間がなかなかとれない状況がある。専科教員を活用することにより，専門性の高い授業ができると同時に，担任の先生も空き時間が生じて業務改善につながると考えている。

名称としては，「業務改善」という言葉は使っていないが，そのような意味を含めているところである。

(島津委員) 業務改善の意味も込めていることで理解した。

(原之園委員) 資料の共通事項に「新規採用教員及び再配者については，育成の視点に立った配置に努める。」とある。先ほど，学校の規模に

ついて話があったが、もう少し詳しく教えていただきたい。

また、「離島等の教育の充実を図るため、公平分担の趣旨を踏まえた離島等への異動を積極的に推進する。」とある。今年的人事異動まで含めて、離島勤務がまだない場合、自ら進んで行く方が多いのか。それとも、教職員課からの働きかけがあるのか。

(教職員課長) 「育成の視点に立つ」というのは、例えば、新規採用教員が小規模校に配置された場合、小規模校の良さもあるが、引き続き小規模校であると、一番大事な養成の時期に大規模校や中規模校の良さを経験できなくなる。離島は教育の原点だということもあるが、離島を経験したことのない教員に離島の教育を経験させるようにしている。なるべく早いうちに、規模や地域など様々な要素を経験していただくことは教員養成にとって大事であるので、「育成の視点に立った配置に努める」としている。

2点目について、鹿児島県の教員は採用試験の際に必ず県下どこの学校にでも赴任できるか聞いている。全員そのつもりでいるが、家庭の都合で今回は異動できない、あるいは、子供が育ってから異動したいという場合もある。また、離島の学校からは、様々な年代の方に来ていただきたい、あるいは、今回は理数ではなく語学の先生に来ていただきたいなどの要請もあるので、自ら進んで行く方に加えて、こちらで教科や年代を踏まえて働きかける場合もある。

(原之園委員) これまでの趣旨のとおり、南北600kmの鹿児島の教育を全教職員で公平に担っていくということによいか。

(教職員課長) そのとおりである。

(堀江委員) 資料に「児童生徒を理解する力や学力向上を図る指導力など、教員としての資質を向上させるため、教員交流研修など多様な交流を推進する。」、「小中学校間の交流研修を積極的に進める。」とあるが、具体的にはどのような交流がどの程度行われ、どのような成果があったのか教えていただきたい。

また、「中学校においては免許外教科担任の解消に努める。」とあるが、これがどのくらいの割合でなされて、教員の数も限られている中、どのような形で解消に努めていくのか、教えていただきたい。

(教職員課長) 教員交流研修は、校種間、岐阜県、福島県等、国立大学法人と交流を行っている。

校種間は年度によって希望者数が変化しており、今年4月の異動では、小学校から中学校へ9人、小学校から特別支援学校へ2人であり、教員交流研修の合計は39件であった。これは、希望者の適性を見て判断している。

県外交流の場合は、岐阜県からは、小学校、中学校及び高校から毎年1人ずつ交流している。

国立大学法人とは、各教科で交流している教員が戻ってくるときに交流している。これも校種間と同様、人数が決まっているわけではないが、そのような形で進めているところである。

中学校における免許外教科担任の解消については、龍北中学校

で言えば一人だけ複数の教科を持っている者がいる。小規模校の場合、定数上、全ての教科の教員を配置することができない。そのため、例えば、数学の先生が理科を教えたり、ピアノを習っていた先生が音楽を教えたり、免許外の許可を受けて教えている。これは法的にも1年に限って認められているが、やはり免許を持っていないため、これを解消しなければならない。

解消方法としては、近くに住んでいる免許を持った方に非常勤講師として入っていただいております。今年は県下で131人配置されている。免許外許可を受けたのは、県下で25件である。

そのほかにも、免許外許可ではなく、一定の指導力があり、経験の度合いを見て、臨時免許状を取得することもある。これは3年間有効であるので、これを取得して免許所有者として教壇に立っていただくことも進めているところである。

また、専科教員の話もあったが、例えば、小学校の先生のうち、中学校の免許を持っている方に中学校で音楽を教えていただくなど、他校種の先生に授業していただく例もある。このような形で対応しているところである。

(教育長) 異議がないようなので、議案第1号及び議案第2号は原案のとおり議決する。

### 議案第3号 平成31年度県立特別支援学校幼稚部幼児及び高等部生徒の募集定員の策定について

(特別支援教育室長) 平成31年度県立特別支援学校幼稚部幼児及び高等部生徒募集定員を定めようとするものである。

(島津委員) 鹿児島高等特別支援学校の募集定員は32人で前年度と同じである。希望者は多かったと思うが、前年度の倍率はどのくらいだったのか。

(特別支援教育室長) 平成30年度の倍率は1.47倍であった。平成29年度の1.94倍からは減少している。

(島津委員) 鹿児島高等特別支援学校への入学希望者は結構多いので、いずれは枠を広げる必要があると思う。その辺についてはどのように考えられているか。

(特別支援教育室長) 九州の高等特別支援学校の受験状況では、平成29年度の平均倍率は1.75倍であった。本県は1.94倍であったので、この時点で32人を超える定数を設定することも考えなければならないとも思ったが、平成30年度の倍率が下がったので、今後の状況を見て検討してまいりたい。

(島津委員) 状況を見ながら、必要に応じて考えていただきたい。

(教育長) 異議がないようなので、議案第3号は原案のとおり議決する。

## 5 その他

(1) 平成29年度児童生徒の問題行動・不登校等（鹿児島県公立学校）の概要について

(義務教育課長) 平成29年度児童生徒のいじめ、不登校、暴力行為、高等学校中途退学者数等及び自殺の状況について説明

(島津委員) いじめの状況の把握数については、全国の数字と逆の傾向が出ているので、きちんと把握できているのか気になっている。また、認知件数0件の学校の割合が小学校で6割近くであるが、潜在的ないじめが発見されていない懸念もある。

いじめの発見のきっかけでは、「アンケート調査など学校の取組により発見」、「本人からの訴え」、「学級担任が発見」とある。学級担任による発見が約16%であるが、全国との比較はできるか。全国的に学級担任がその辺の把握をしっかりとしているにもかかわらず、それができていない可能性はないか。

(義務教育課長) 学級担任による発見について、全国の数値は、小学校、中学校、高校及び特別支援学校全て合わせて11.1%である。鹿児島県と比べて大きな差はないと考えている。

認知件数で差が出てくるのは、きめ細かいアンケートの実施、教育相談、担任による保護者からの聞き取り等を月1回行っているところは、認知件数が多い傾向がある。

(島津委員) そのような取組をしていただいて、潜在的ないじめも含めて認知していただきたい。

(原之園委員) いじめの認知件数0件の学校の割合で、小学校58.7%、中学校43.5%、高校18.3%である。過去との比較はどうか。昨年度もこのような状況だったのか。

(義務教育課長) 認知件数0件の学校の割合は、平成27年度は小学校48.1%、中学校34.2%、高校8.0%であった。平成28年度は小学校56.2%、中学校47.8%、高校23.9%であった。約5割が認知をしていない学校の割合として出てきている。学校とヒアリングしたところ、学校はいじめを見逃しているというよりは、いじめに対応して学校の中で解決し、教育委員会に報告していない傾向が大きい。いじめ防止対策推進法で定められているいじめを解決したとしても、それを1件として、市町村教育委員会を通じて県教育委員会へ報告していただくようお願いしていかなければならないと考えている。

(原之園委員) 昨年12月にいじめの認知件数0件の学校には、文部科学省から再調査をするよう通達が来たと思う。そのようなことを考えると、やはり1件でも多く見つけて、1件でも多く解決することが重要であると思っているが、その辺については、いかがか。

(義務教育課長) 今回いじめの認知件数0件の学校には、再度検証をするよう通達が来ている。再調査までは言われていないが、検証するよう国から言われているので、市町村教育委員会にも通達している。

認知件数0件の学校がこれほど多いのは、構造的な問題があると思っている。まず、学校がなかなかいじめがあったことを言いにくい環境であることである。保護者や地域の方々に対してマイナスの評価をされてしまうのではないかという危惧から、0件で

報告をしていることが考えられる。

もう一つは、いじめがあることにより、市町村教育委員会や県教育委員会から学校経営が上手くできていないと思われたり、細かく聞かれたり、細かい資料を出したりすることを煩わしく思っていて、いじめの報告を消極的にさせているのではないかと考えている。

その辺りを解消できるよう、教育委員会では日頃から市町村教育委員会を通じ、いじめはしっかり認知し、報告することが正しく、むしろ認知に至っていないことがおかしいと伝えている。また、報告を簡素化し、合理的にできるよう指導してまいりたい。

(原之園委員) 子供が学校で楽しく生活できることが一番である。問題点があれば、それを取り除くのは学校の先生と教育委員会であると思っているので、子供たちが学校を楽しく感じるようにしていただきたい。

また、いじめがあっても、そのいじめをきちんと解決する努力をすればよいと思っている。件数は少ない方がよいが、子供を中心に考えていただきたい。

(石丸委員) 不登校の状況については、毎年把握調査されているが、小学校のときに不登校だった子供が中学生でも不登校になる傾向はあるのか。

特に、高校は全国と比べると多い状況であるが、どのように考えられているか。また、対策はなされているのか。

原因としては、小中学校も高校も「『無気力』の傾向がある」ことが一番多く挙げられている。子供が無気力になる原因があるのではないかと思うが、どのように考えられているか。

(義務教育課長) 不登校の生徒は継続なのか、新規なのかという質問について、一概には言えないが、一般的には中学校の新規が多い。小学校と比べると、全体の数としては、中学1年生で跳ね上がっている状況である。中には、小学校から不登校が継続している子供もいる。

学校では新規を減らすよう取り組んでいる。新しく不登校になった子供が継続する傾向が大きいので、不登校の兆候が見られたらカウンセリングを実施したり、個別にケアをしたりしている。担任の先生だけでなく、カウンセラーや養護教諭などチームでしっかり支援する動きが広まっている。鹿児島県が小学校と中学校の不登校を減らしているのは、そのような取組の成果であると思っている。

高校の比率が高いことについては、詳細な分析をしているところであるが、高校では自分の思うように学業などができず、退学する傾向もあるので、しっかり卒業させるよう指導をしていただいている。

無気力については、資料に不登校の要因を記載している。不登校の人数が多い中学校を見ると、5つの分類の中で無気力が一番多い34.8%である。不安がその次の31.6%となっている。

無気力になったきっかけについては、学業の不振が一番多い。学校には行っていたが、勉強について行けなくなり、やる気がなくなった。また、家庭に係る状況については、家庭で学校に行くようにしっかり話ができているところもある。不登校の主な要

因は無気力や不安であるが、単なる無気力として片付けられず、学校や家庭に要因があることが分かっている。

(石丸委員) 中学1年生で新規の不登校が増えるとのことだった。鹿児島県の小学校と中学校の連携をしているところもあると思うが、そのようなところとそうでないところで不登校の差は出てきていないか。

(義務教育課長) 統計的な数字は出ていないが、中学校で増える不登校を防ぐために小中連携をしている学校や義務教育学校はある。そこは不登校の数が前より少ないと報告されている。

## (2) 大島地区の教育概況について

(大島教育事務所長) 大島地区内の学校の概要、教育行政の概要、特色ある教育活動、文化財保護及び主な受賞歴等について説明

(島津委員) やはり、児童生徒数の減少が課題となっている。中高一貫教育を実施しているところもあるが、小規模校が増えている中、小中の連携について検討しているか。

(大島教育事務所長) 小中併設学校はあるが、小中一貫教育については、今のところ検討していない。

(島津委員) いずれはそのような形をとらなければならない時期が来ると思う。

(今村委員) 鹿児島学習定着度調査において、小学校で優秀でも中学校になると平均以下となる子供がいるが、どのように考えているか。

(大島教育事務所長) 小規模校が多いため、中学校では全ての教科の教員を配置できない学校が約8割という状況がある。  
しかしながら、学習に対する意欲を大事にしながら学力をつけていかなければならないと考えている。また、基礎・基本の定着、活用する力の定着のために、先生方がいろいろな授業の工夫をし続けなければならぬと考えている。

(今村委員) ある程度小学校で優秀な子供が本土の中学校に行くことにより、中学校の成績が下がることはないか。

(大島教育事務所長) 本土の中学校への進学による影響はないと言いたい。中学校の結果を分析したとき、無回答が多かったり、知識の問題に十分配慮ができていなかったりするので、結果を出すことができるように授業改善に取り組んでいるところである。

(教育長) 島内ではなく、本土の中学校へ進学する子供はいるのか。

(今村委員) 中高一貫校など寮に入る生徒が結構多いと聞いているが、その影響はないか。

(大島教育事務所長) 中学校から私立の学校に進学する生徒はいる。全く影響がない

とは言い切れないが、あったとしても現在、大島地区で学んでいる児童生徒のために頑張っていかなければならないと考えている。

(義務教育課長) 小学校である程度学力調査の結果が出ているのにもかかわらず、中学校で下がっている理由については、学校の体制もあるが、実際には、大島地区の中学校で全国平均よりも10から15ポイント高い結果を出している公立学校はいくつもある。一方、全国平均よりも10ポイント低い学校もある。一概に体制や雰囲気だけで片付けることはできない。学校の意識や取組の徹底により結果は変わってくるので、県教育委員会の責任として、そのような差が出ないように徹底してまいりたい。

(原之園委員) 学力に関して、義務教育課長はいつもWebシステムの活用について話されている。大島地区は離れており、少人数の学校もあるので効果的ではないかと思うが、活用状況はいかがか。

(大島教育事務所長) Webシステムについては、管理職研修会等でも周知しており、活用している状況はある。

6 教育長報告  
報告第1号 平成30年度県立学校職員の能力評価及び前期業績評価について  
(非公開)

7 議案  
議案第4号 平成30年度鹿児島県優秀教職員表彰の被表彰者決定について  
(非公開)

8 その他  
(3) 平成30年度文部科学大臣優秀教職員表彰の被表彰者の推薦について  
(非公開)

9 閉会